

不妊治療支援を通じた 更なる女性活躍推進について

～制度導入の必要性と導入ガイド～



NPO法人Fine
～現在・過去・未来の
不妊体験者を支援する会～

【背景】不妊治療支援が必要な3つの理由

- ✓ 5.5組に1組が不妊治療を受け、約16人に1人が体外受精で誕生
- ✓ 仕事と不妊治療の両立ができず、約4人に1人の女性が「不妊退職」
- ✓ 退職時に「不妊治療」とは明かさない ため、実情が企業に見えていない

【目次】

1. 不妊退職の経済損失は年間1,345億円超
2. 不妊治療支援制度の必要性
3. 自社の退職経済損失は？
4. 制度導入に伴う留意点

【参考1】妊活理解度チェックリスト

【参考2】当事者の声なき声

1. 不妊退職の経済損失は 年間 1,345億円 超

	不妊退職による経済損失額(育成・再雇用費用含まず)	1,345 億 3,363 万円
1	不妊治療件数	44 万 8,210 件
2	不妊治療患者数	14 万 9,403 人
3	女性の就業率	69.7%
4	不妊治療と仕事を両立できずに辞めた人の割合	23.0%
5	不妊治療による離職者数 (2 × 3 × 4)	2 万 3,951 人
6	女性の平均賃金 (年収換算)	371 万 8,478 円
7	所得の減少 (5 × 6)	890 億 6,126 万 6,578 円
8	労働分配率	66.2%
9	企業活動の付加価値の減少 (経済損失) (7 ÷ 8)	1,345 億 3,363 万 5,314 円

※2020年2月Fineプレスリリースより

https://j-fine.jp/prs/prs/fineprs_kokkaibenkyokai200130.pdf

2. 不妊治療支援制度の必要性

➤ 「SDGs(持続可能な開発目標)」への取り組みに対する社会的要請



- 「健康経営」が、従業員の就業継続、生産性の向上をもたらす
- 不妊治療支援制度がない企業は、経験を積んだ貴重な女性人財を失うリスクがある

3. 自社の退職経済損失は？

□ 実質的損失は、退職者年収の約 2 倍に

【年間損失額】 ①×(②+③)円

- | | |
|--------------------|---------|
| ①不妊治療による年間退職者数 | (①) 人 |
| ②会社の直接的損失 (利益減少額) | (②) 円 |
| ③補充のための新規採用及び研修コスト | (③) 円 |

【退職者一人当りの損失額】 745万円/人

①1人× (②560万円※1 + ③185万円※2)

※1 女性の平均年収(370万円)÷労働分配率(66%)

※2 年収の半分を想定

4. 制度導入に伴う留意点

□ 既存制度の利用条件の周知や緩和など、すぐにできることから着手

- ・既存の休暇/休職制度が、不妊治療でも利用可能であることを周知
- ・在宅勤務制度の適用条件に、不妊治療を追加する
- ・生理休暇を、不妊治療や女性特有の体調不良でも使えるように変更

□ 今後は、誰もが「制約のある社員になりうる」という前提での制度検討

- ・制約を前提とした柔軟性の高い制度により不公平感を緩和する

＜制約要因＞

育児、介護、妊活、がん等治療、兼業/副業、コミュニティ活動、ボランティア/プロボノ、資格取得、趣味など

□ 制度を通じて、改めて企業理念を浸透し、風土を醸成

「このような企業理念に基づき、利用者に対するこういう思いを込めて、制度を導入する。」といった、理念との整合性を意識した社内周知を行う

【参考1】 妊活理解度チェックリスト

- 不妊治療経験者は、夫婦全体の5.5組に1組(18.2%)
- 不妊治療の負担には、【からだ】【こころ】【お金】【時間】の4つがある
- 不妊治療経験者のうち、両立ができず退職した女性は4人に1人
- 86%の人が、「不妊治療をしている」ことを職場で伝えていない
- 67%の企業が、不妊治療を行っている従業員の把握ができていない
- 不妊治療の期間は、全体の約8割が1年以上(全体の5割は2年以上)
- 不妊治療者の4組に1組(25.6%)は、二人目の不妊治療に取り組んでいる
- 不妊の48%は、男性にも原因がある(男性または男女双方に原因がある場合)
- 女性の不妊の頻度は、40代前半と20代後半では3倍以上の差がある
- 体外受精などの生殖補助医療で生まれた子どもは16.7人に1人
- 不妊治療をしても、必ず妊娠・出産できるとは限らない

□ 両立が難しい ～職場の理解、自分の葛藤～

- ・急遽明日来てくださいと指示があり、さらに1週間の間に何度も通院するので、休みが取れない仕事では退職せざるを得ませんでした。病院の待ち時間も長く、遅刻や早退でも対応できませんでした。(20代)
- ・高齢でもあり「不妊治療を受けること自体がおかしい」と言われ、周囲の理解が得られませんでした。(40代)
- ・すでに1人子どもがいるので、「もう良いんじゃない？」と思われるのが嫌でした。(40代)
- ・周りには普通に妊娠、出産をして、産休・育休、時短勤務を使い仕事を続けているのに、自分はどちらかを諦めなければいけないのが悲しく、悔しかったです。(30代)
- ・赤ちゃんがほしい気持ちと、職場に迷惑をかけてしまって申し訳ない気持ちが入り混じって、とても複雑でした。(30代)

□ 両立できた ～感謝の声～

- ・直属の上司から、「毎日定時に帰っても、突然休んでも、早退しても良いから辞めないで」と言われ、毎日定時に帰れるようになったので、とてもありがたいと思いました。(20代)
- ・治療で休む回数が多く、急な変更があるので、少人数の部署から人数の多い部署へ異動しました。上司の「辞めるより異動しよう」という言葉がうれしかったです。(30代)
- ・職場の理解があり、治療のために部署を異動しました。だからこそ絶対に迷惑はかけたくなかったので、自分でしっかりリスクを説明し、代わりに行なえる業務など提案しました。(30代)

発行者 特定非営利活動法人Fine（ファイン） Fine:Fertility Information Network
〒135-0042 東京都江東区木場 6-11-5-201
HP <http://j-fine.jp/> E-mail fine-riji@j-fine.jp
TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606